

郷土の洋画家4人の作品がずらりと



十二月十四日から十九日まで、市民文化会館で収蔵美術作品展が開かれました。群馬の洋画界をリードした四人の画家と題し、南城一夫・横堀角次郎・清水刀根・中村節也の作品が一堂に。十七日には県美術会常任理事・高橋晴人さんの作品解説もあり、多くの市民でにぎわいました。

ま ば し え し フラッシュ コミュニティ



「この地域は米麦、酪農や養蚕中心の農業でした。減反が進み外国産の安い生

第三十八回県園芸生産者大会で、地域の園芸振興に対する功績が認められ、花き部会の功労者に選ばれた。

「昭和三十六年から節用の桃の切り花生産を始め、その後、梅やテッポウユリなどへと変わってきましたが、こうして表彰の栄に浴することができたのも、長い間、力を合わせて努力を重ねてきた地域の皆さんのおかげです。わたし一人がもらったのではなく、みんなでもらったのだと思っています」

花き栽培を始めたころは、市場での評価がなかなか得られず、に苦労した。

「この地域はほとんどの園芸農家で若い後継者が育っていません。もう技術的にはわたしの教えることもないでしょう。これからますます外国産との競争も厳しく、時代や消費者のニーズを先取りしていかなくてはなりません。頑張ってくださいね」

元気で明るく、孫と一緒に楽しく暮らす毎日だ。



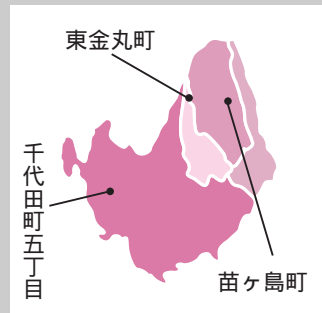
県園芸生産者大会で功労者表彰
石橋 光男さん(77)
苗ヶ島町

みんなの力を合わせた成果

糸がたくさん入ってくるようになって、転換を余儀なくされていた父が亡くなり、花作りを切り替えました。産地から苗木を買ったり、栽培や出荷の方法などを教えてもらったり、昭和四十五年に展覧会で入賞してからやっと軌道に乗りました。高値で取引され、市場での評価が高くなるにつれ、それまでの苦労が報われた喜びを感じます。現在は長男夫婦が仕事の中心を担っている。

ふれあい広場

情報をお寄せください。市役所市政発信課 890-6642へ。



師走のまちで 元気にもちつき

本庁管内

十二月十八日、千代田町五丁目自治会館でもちつき大会が行われました。二十五年前から続く年末の恒例行事。子どもたちも大人に交じり、掛け声を合わせ元気にきねをつきます。白からはおいしそうな湯気が立ち上り、つきたてをすぐに辛みもちや大福に。会館内で行われる老人会の忘年会にも毎年差し入れ



して喜ばれています。

増田作市自治会長は「米がもちになる過程を子どもに知ってもらおうと生涯学習の一環で始めました。今ではもう欠かせない行事です」と話していました。

まちの ニュース news

空っ風の中 たすきつなく

大胡地区



大胡地区で十二月十一日、地区内一周駅伝競走大会を開催。高低差の激しい十一区間二〇・七のコースに自治会など十三チームが参加しました。

スタート地点の東金丸町自治会館でレースに先立ち開会式を開き、選手代表が「練習の成果を発揮し、一生懸命たすきをつなぎます」と力強く宣誓しました。十時十五分、号砲とともに第一走者がスタート。選手は時折強く吹く空っ風に妨げられたり助けられたりしながら、ゴールの大胡総合運動公園へとたすきをつなぎました。

福祉バザーで会場沸く



十二月十日、総合福祉会館隣の第一体育館で、福祉バザーが行われました。二十三回目が集まった品物は九千点。掘り出し物目当てに会場内はひしめき合う人の熱気に包まれました。この売上金は、福祉事業資金に役立てられます。

しめ縄飾りを講習会で



お正月用のしめ縄飾りを作る講習会が、12月18日に芳賀公民館で行われました。縄をない、和紙、松の葉、ミカンで飾り付け。年配者から子どもまで20人が参加し、楽しく作りました。縄をなうのにとまどう人もいましたが、先生に教わりながら、1時間ほどでみんな上手に完成。大切に家へ持ち帰りました。

子どもの人権 大切な権利

人権は最も基本的な権利ですが、近年、子どもの虐待が大きな社会問題になっています。虐待は子どもの人格形成や心身の成長に重大な影響を及ぼします。

前橋が元気で明るいまちとして発展するためには、次代を担う子どもたちの健全な成長が必要です。そこで、行政や教育機関が地域の皆さんとともに、児童虐待防止ネットワーク会議を立ち上げ、市民力、地域力によって子どもたちへの虐待防止に努めています。

子どもたちの人権を深く認識され、今後とも偏見や差別のない明るい前橋づくりに引き続きご尽力をお願いします。(平成十七年度子どもの人権講演会、平成十七年十二月十四日)

